●「SHINWA WALK―伝説そぞろ歩き」は、「ギリシャ神話と日本神話のハイブリッド」という手法で、郷土の神話、伝説、民話の足跡をたどるロマン紀行です。新しい伝説の世界をお楽しみください。

SHINWA WALK 30

30th Letter

有松の古い町並み伝説

伝説そぞろ歩き

東屋で
往時偲びて
旅風情
絞りたゆたう
古い町並み

江戸時代の町並みが現存

有松絞りとからくり山車も

有松は、慶長13年（1608年）、桶狭間村の市郷として、東海道53次のうち地鯉鮒（知立）と鳴海の宿の間に茶屋集落として生まれた町で、当時まだ貴重であった木綿地に絞り染めをして手拭いを作り、旅人に売ったのを始まりとして、以来約400年、伝統工芸の歴史を今日に伝えています。

有松絞りは、徳川5代将軍・綱吉の将軍職就任を祝って、絞りで馬の手綱を作り、献上した頃から天下にその名を広め、東海道一の名産と持てはやされました。絞りが飾られた豪壮な店々は、街道一の美観として、広重や北斎など、著名な画人が数多く有松を描いています。

有松の町家は、天明4年（1784年）の「天明の大火」で町中が一夜にして灰になったこともありましたが、尾張藩の手厚い庇護と人々の努力により、20年後には完全に復興し、町屋建築の建物群が900mにもわたって立ち並びました。それが今に残る商家の原型で、江戸時代の商家の姿をそのまま現代に残して、総瓦葺、表は格子、塗りごめ造り、なまこ壁、2階は虫籠窓が特徴で、今も十数軒が軒を連ね、当時のままの古い町並みが残り、落ち着いた風格を漂わせています。

服部家住宅・服部幸平家蔵の2軒が県の指定文化財、岡家住宅・小塚家住宅・竹田家住宅の3軒が市の指定文化財になっているほか、町並み全体としても名古屋市の町並み保存地区の第一号として指定を受け、文化財「からくり山車人形」の町史跡、桶狭間古戦場跡の町として、1年を通して国内外から多くの人が訪れています。

さらに、2016年（平成28年）5月20日には、有松の町並みが、国の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）の選定の答申を受けました。重伝建とは、特に価値の高い町並みを文化財として国が選定するもので、これまでに全国で110 地区が選定されています。東海道沿いの町並みとしては、関宿（三重県亀山市）に続いて2地区目の選定です。

ゼウスからの罰で天空支える

世界の果てのアトラス

江戸時代から続く古い町並みを守っているという話でしたが、ギリシャ神話では、天と地を分けるため体で支えて守っているのがアトラスです。世界の西の端に立って、一瞬の休みなしに頭と両腕で天空が落ちてこないように支えているとされています。

アトラスは、ティタン神族と呼ばれる12人の巨神のうちの1人、イアペトスの息子。人類の起源であるプロメテウスとエピメテウスの兄です。ちなみに、1912年の処女航海で難破沈没したイギリスの豪華客船「タイタニック号」は、この巨神ティタンにちなんで命名されたものです。

アトラスは自ら率先して天空を支えていたわけではありません。ゼウスとの戦いでティタン族が敗北し、ゼウスから罰を受けたからで、並外れて巨大な体と無類の怪力を持っていたアトラスには、世界のために大切なこの役目を罰として与えられたのです。

しかし、私生活では良き夫であり良き父で、妻・プレイオネスとの間には、マイア、ヘスペリデス3姉妹、カリュプソなど多くの娘たちが生まれています。なかでも、マイアはゼウスと結ばれてギリシャ神話のキーパーソンであるヘルメスを誕生させているのです。

また、一番の孝行娘だったのが、ヘスペリデス3姉妹。彼女たちは父親が追放された世界の西の端まで同行し、

▲ 重要伝統的建造物群保存地区に選定された有松の古い町並み

アトラスの陰に植えられたヘスペリデスの園で林檎の番人を務めていました。

ヘスペリデスの園はペルセウスが冒険の途中で立ち寄ったことでも有名で、アトラスは突然現れたペルセウスを、林檎を盗みに来たと勘違いして襲いかかります。

ペルセウスは、メドゥーサの首で応戦。メドゥーサの首を見た者はすべて石になってしまうので、アトラスもみるみる石になり、それが今の北アフリカのモロッコからアルジェリアにかけてそびえるアトラス山脈になったといわれています。

これにより、アトラスは「天空を体で支えて守る」という長年の任務から解放されました。一方、有松の古い町並みは、絶やすことなくこれからも守り、未来に伝えていきたい文化財です。

※次回は、有松のからくり山車伝説について特集します。お楽しみに。

■ 写真／Kiyoshi K ■ イラスト／Rei
■ 取材・文／Icarus